2024　年度　授業計画(シラバス)

| 学　　科 | 言語聴覚士学科昼夜間部 | | 科　目　区　分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 科　目　名 | 運動障害性構音障害 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 45　(2)　時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期　6,7限他 | 教室名 | 401教室 |
| 担 当 教 員 | 奥村正平 | 実務経験とその関連資格 | 急性期・回復期病院で勤めて14年となる。主に失語症・高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害患者に対する言語聴覚療法を行っている。<br>日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士　LSVT　LOUD®認定講習修了 | | | |

《授業科目における学習内容》

運動障害性構音障害の発生メカニズムと特徴を説明できる
発声発語器官の形態と機能を理解し、運動障害性構音障害患者に対して適切な検査やリハビリテーションを行うことができる
発話補助手段について理解し適切に利用できるようになる

《成績評価の方法と基準》

学期末テスト100%(試験素点が60点以上を合格とする)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

テキスト:藤田郁代 監修　≪標準言語聴覚障害学≫　発声発語障害学（第3版）
　　西尾正輝 著　AMSD 標準ディサースリア検査
参考図書:苅安誠 著　神経原性発声発語障害　dysarthria
　　西尾正輝 著　ディサースリア臨床標準テキスト第2版

《授業外における学習方法》

・音声学について学び、正常の構音運動を理解することで、運動障害性構音障害について深まるため、復習しておく。
例)国際交流基金 著　音声を教える(国際交流基金日本語教授法シリーズ2)
　山本一郎 監修　目で見る日本語音の産生 エレクトロパラグラフィ(EPG)を用いて
・日々の授業内容の復習

《履修に当たっての留意点》

学生同士で視診や触診を行うことがございます。
ご理解の上受講の程よろしくお願い申し上げます。

| 授業の方法 | | | 内　　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動障害性構音障害の概要を説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 言語聴覚障害概論を復習し、運動障害性構音障害と他の言語障害の違いを確認しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の基礎　－概論①－を学ぶ | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動障害性構音障害が生じる神経学について説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 解剖学、生理学を復習し発声発語に関連する神経を理解しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の基礎　－神経学的基盤①－を学ぶ | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動障害性構音障害が生じる神経学について説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 解剖学、生理学を復習し発声発語に関連する神経を理解しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の基礎　－神経学的基盤②－を学ぶ | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 発声発語器官の構造を説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 解剖学、生理学を復習し発声発語に関連する筋を理解しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の基礎　－発声発語器官の構造①－を学ぶ | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 発声発語器官の構造を説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 解剖学、生理学を復習し発声発語に関連する筋を理解しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の基礎　－発声発語器官の構造②－を学ぶ | | |

| 授業の方法 | | | 内　　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動障害性構音障害のタイプの特徴を説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 神経系の機能・構造・病態を復習し、発声発語に関連する神経を理解しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の基礎　－タイプとその特徴①－を学ぶ | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動障害性構音障害のタイプの特徴を説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 神経系の機能・構造・病態を復習し、発声発語に関連する神経を理解しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の基礎　－タイプとその特徴②－を学ぶ | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 評価の概論を理解し適切な評価の選択が出来るようになる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 小テスト①<br>言語聴覚障害概論を復習し、評価の必要性などについて復習しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の評価　－概論－を学ぶ | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | AMSDを用いて正確に評価できるようになる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 言語聴覚障害概論を復習し、評価の必要性などについて復習しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の評価　－様々な評価方法－を学ぶ | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | AMSDを用いて正確に評価できるようになる | ・プロジェクター<br>・バイトブロック<br>・鼻息鏡<br>・AMSDマニュアル<br>・テキスト<br>・配布資料 | 小テスト①の解説<br>AMSDのマニュアルの実施方法を一読し方法の理解しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の評価　－AMSD①－を学ぶ | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | AMSD以外の評価方法について説明できる | ・プロジェクター<br>・バイトブロック<br>・鼻息鏡<br>・AMSDマニュアル<br>・テキスト<br>・配布資料 | AMSDのマニュアルの実施方法を一読し方法の理解しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の評価　－AMSD②－を学ぶ | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動障害性構音障害の治療についての概要を説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 言語聴覚障害概論を復習し、訓練の必要性などについて復習しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－概論①－を学ぶ | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動障害性構音障害の治療についての概要を説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 言語聴覚障害概論を復習し、訓練の必要性などについて復習しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－概論②－を学ぶ | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸や発声のメカニズムやアプローチについて説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 解剖学、生理学、第5回、第6回の授業内容を復習し、呼吸に関連する筋や神経を確認しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－呼吸・発声へのアプローチ①－を学ぶ | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸・発声のメカニズムやアプローチについて説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 解剖学、生理学、第5回、第6回の授業内容を復習し、呼吸に関連する筋や神経を確認しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－呼吸・発声へのアプローチ②－を学ぶ | | |

2024　年度 授業計画(シラバス)

| 学　　科 | 言語聴覚士学科昼夜間部 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 運動障害性構音障害 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 45　(2)　時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期　6,7限他 | 教室名 | 401教室 |
| 担 当 教 員 | 奥村正平 | 実務経験とその関連資格 | 急性期・回復期病院で勤めて14年となる。主に失語症・高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害患者に対する言語聴覚療法を行っている。<br>日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士　LSVT　LOUD®認定講習修了 | | |

《授業科目における学習内容》

運動障害性構音障害の発生メカニズムと特徴を説明できる
発声発語器官の形態と機能を理解し、運動障害性構音障害患者に対して適切な検査やリハビリテーションを行うことができる
発話補助手段について理解し適切に利用できるようになる

《成績評価の方法と基準》

学期末テスト100%(試験素点が60点以上を合格とする)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

テキスト:藤田郁代 監修　≪標準言語聴覚障害学≫　発声発語障害学 (第3版)
　　西尾正輝 著　AMSD 標準ディサースリア検査
参考図書:苅安誠 著　神経原性発声発語障害　dysarthria
　　西尾正輝 著　ディサースリア臨床標準テキスト第2版

《授業外における学習方法》

・音声学について学び、正常の構音運動を理解することで、運動障害性構音障害について深まるため、復習しておく。
例)国際交流基金 著　音声を教える(国際交流基金日本語教授法シリーズ2)
　山本一郎 監修　目で見る日本語音の産生 エレクトロパラグラフィ(EPG)を用いて
・日々の授業内容の復習

《履修に当たっての留意点》

学生同士で視診や触診を行うことがございます。
ご理解の上受講の程よろしくお願い申し上げます。

| 授業の方法 | | | 内　　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第16回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 口腔・顔面・舌機能に合わせたアプローチについて説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 解剖学、生理学、第5回、第6回の授業内容を復習し、発声に関連する筋や神経を確認しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療<br>－発声発語器官へのアプローチ①－を学ぶ | | |
| 第17回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 口腔・顔面・舌機能に合わせたアプローチについて説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 解剖学、生理学、第5回、第6回の授業内容を復習し、発声に関連する筋や神経を確認しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療<br>－発声発語器官へのアプローチ②－を学ぶ | | |
| 第18回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 構音の特徴を理解した構音訓練の立案が出来るようになる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 音声学、音響学、第17回、18回の授業内容を復習し、構音について復習しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－構音訓練①－を学ぶ | | |
| 第19回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 構音の特徴を理解した構音訓練の立案が出来るようになる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 音声学、音響学、第17回、18回の授業内容を復習し、構音について復習しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－構音訓練②－を学ぶ | | |
| 第20回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 補綴装置やAACを用いたコミュニケーション方法について説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 小テスト②<br>他科目でも学んだ補綴装置やAACについて復習し、運動障害性構音障害との関連を確認しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－補綴装置、拡大・代替コミュニケーション(AAC)のアプローチ－学ぶ① | | |

| 授業の方法 | | | 内　　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第21回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 補綴装置やAACを用いたコミュニケーション方法について説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 他科目でも学んだ補綴装置やAACについて復習し、運動障害性構音障害との関連を確認しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－補綴装置、拡大・代替コミュニケーション（AAC）のアプローチ－学ぶ② | | |
| 第22回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | チームアプローチについて説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 小テスト②の解説<br>言語聴覚障害概論を復習し、チームアプローチの必要性などについて復習しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－チームアプローチ－を学ぶ① | | |
| 第23回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | チームアプローチについて説明できる | ・プロジェクター<br>・テキスト<br>・配布資料 | 言語聴覚障害概論を復習し、チームアプローチの必要性などについて復習しておく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動障害性構音障害の治療　－チームアプローチ－を学ぶ② | | |
| 第24回 | | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第25回 | | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第26回 | | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第27回 | | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第28回 | | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第29回 | | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |
| 第30回 | | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | | | |